

---

### 第3章 川の物理的な環境と変化

---

**ポイント：**

川の流れには土砂を侵食、運搬そして堆積する作用があります。そして、流れは常に変動を繰り返し、これら3つの作用によって、川には多様な環境が形成されます。このような多様な環境を利用して、川には川独特の多様な生物が生息しているのです。

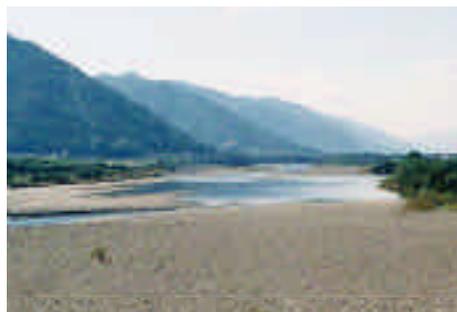
#### 3 - 1 吉野川の風景

同じ川でも、川の姿は場所によって違います。しかし、日本の大きな川を考えると、上流、中流、下流の姿は、私たちに共通したイメージを想像させます。



上流では川幅が狭く、河床には大玉石や巨石がみられ、河道は山間をぬうように屈曲して流れています。河床や河岸には岩が露出しています。

(吉野川支川 銅山川)



(吉野川  
美馬中央橋の上流)

中流では、川幅が広がり、河床には玉石や砂利がみられ、砂州の形成が進み、緩やかに蛇行して流れます。

また、川の中には島状の土地がみられます。

下流になると、川幅はさらに広がり、流れは緩くなります。河口には、干潟が広がっています。

(吉野川河口 吉野川大橋の下流)



吉野川の風景がどのように変化しているのか、池田ダムから下流に向かって見てみましょう。



(池田ダム下流)  
河口より78 km上流

川の兩岸に山が迫っています。



(美濃田大橋の下流)  
河口より71 km上流

兩岸は切り立った崖です。



(三三大橋の下流)  
河口より68 km上流

次第に河岸の勾配が緩くなり、河原が広がります。



(東三好橋の下流)  
河口から60 km上流

池田ダムから岩津までの区間は、水際に竹林が連続して植えられています。竹林によって、水際と高水敷は分断されています。

連続した水際の竹林は、吉野川を代表する景観です。



(美馬中央橋)  
河口から51 km上流

ここまで下流に来ると、兩岸の山もだいぶ遠くに見えるようになります。川は、砂州の間を緩やかに蛇行しています。典型的な中流の風景になります。このような風景は、柿原堰まで続きます。



(柿原堰下流)  
河口から23 km上流

柿原堰から第十堰の間は、河原に緑が多く見られます。砂州の上流側は石礫で覆われていますが、下流側になるとアカメヤナギを始めとする樹木が多くなります。シナダレスズメガヤのような外来の草が、砂州を広く覆っている場所もあります。



(一条南橋下流)  
河口から20km上流

対岸の砂州は、アカメヤナギで覆われています。かつては、礫だったはずですが。



(高瀬橋上流)  
河口から18km上流

砂防の法面緑化などに広く利用されているシナダレスズメガヤが、砂州を広く覆っています。



(高瀬橋上流)  
河口から18km上流

砂州の中に池のような空間が広がっています。流れがある吉野川本川の景観とは全く異なります。



(高瀬橋下流)

河口から 17 km 上流

高水敷は耕作地や採草地として利用されています。砂州はアカメヤナギで覆われています。柿原堰より上流の景観とは、大きく異なります。



(第十堰上流)

河口から 15 km 上流

高水敷は採草地として利用されています。



(名田橋上流)

河口から 11 km 上流

高水敷は耕作地として利用されています。



(吉野川橋梁下流)  
河口から 7 k m 上流

第十堰から下流は、汽水域です。潮の干満の影響を受けて、水際には干潟が広がっています。満潮時には、草がある位置まで水位が上昇します。



(吉野川大橋下流)  
河口から 3 k m 上流

高水敷はグラウンド等の施設が整備され、市民のレクリエーションの場として、親しまれています。



(河口)

吉野川の河口には、大規模な河口砂州が広がっています。